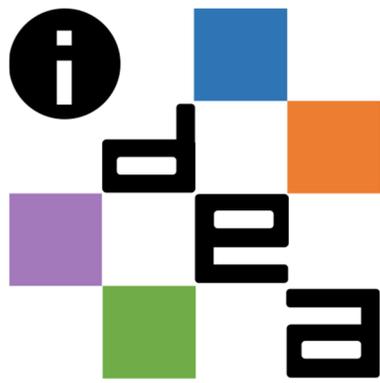


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア



2018

4月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- | | | |
|---|---------|-----------------------|
| 2 | 二言三言 | 生産者ではない視点から農業を考える |
| 4 | 団体紹介 | NPO法人 グッジョブクラブ (一関) |
| 5 | 地域紹介 | 室根 西の沢自治会 (室根) |
| 6 | 企業紹介 | カフェキャトル (千厩) |
| 7 | センターの〇〇 | 100人?に聞きました! 難解地名に挑戦! |

生産者ではない視点から農業を考える

対談者 街なか産直 新鮮館おおまち ^{やながわ} 梁川 真一 さん
 聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

農業のスタイルの変化

「街なか産直 新鮮館おおまち（以下「新鮮館」）」を運営する中で出てきた「商品が増えて、店頭に置くだけでは売りきれない」という課題をきっかけに、地域農業や個々の農家さんの活動を支えようと考え出した「転食活動」という取り組みを中心に、店長の梁川真一さんにお話を伺いました。

【小野寺】梁川さんは生産者ではないけど、生産者との間に入って動いているところが面白いよね。今までに農業の経験はありますか？



街なか産直
梁川真一さん
新鮮館おおまち

【梁川】いいえ、前は製造業の仕事をしていました。

【小野寺】生産の現場にはいたけど、農業とは全然関係ない仕事だったんですね。

【梁川】はい。でも、モノを作る人、中間で日程を決める人、加工する人、モノをさばく人、物流する人がいるという部分では農業も製造も同じなのかなって思います。

【小野寺】僕は農業というと、よく頼に泥をつけて麦わら帽子をかぶって、両手に野菜を持ちながら「できたぞ！」って言うてる絵が思い浮かぶけど…。

【梁川】それ、あんまり恰好良くないですよ。最近では若い農家さんも増えてきているし、もう少し「カッコよさ」とか「可愛さ」を考えていてもいいんじゃないかな。

【小野寺】最近はホームセンターで売っているヤッケ（作業服）がおしゃれになってきているしね（笑）。それに、今まで農家の活動って情報発信することがなかったけど、SNSの広まりによって、個人農家さんの情報発信力は上がってきているように思えて、時代の流れもあるかもしれないけど、そういう変化は見られるようになってきたかな。

「転食活動」の目指すカタチを考える

【小野寺】生産現場のサポートといえば、農協さんや土地改良区とかが思いつくけど、最近は新鮮館自体が攻めの姿勢を見せたりしながら、生産者と生産者をつなげるような動きをしてみたり、孤立無援を防ぐような仕事の仕方をしているのかなって感じています。

【梁川】生産者の交流の場をつくったりもしているんですよ。色々な情報を共有することは大事だし、そこでお互いが気づけなかったところに気づくチャンスにもなるし、農家さんだけでなく業者さんも入ること違うアイデアが生まれるかもしれないし。

【小野寺】農協の青年部とかに入らなければ交流の場とかはないわけで、そういう部分を新鮮館としてとりもっていく、結構重要な仕事じゃないかな。最近、「転食活動」というものを始めたようだけどこれはどういった活動？

【梁川】「転食活動」は、溢れて「転」がっている「食」材を工夫で売れる商品に「転」換するという意味を込め、僕が言葉をもじって作った創作用語なんです。

僕は新鮮館に来て4年くらい経ちますが、その間に新鮮館に野菜を出す人も、商品のバリエーションも増えてきているので、商品のさばき先を見つけていかないと商品が溢れてしまうんですよ。そこで、飲食店さんに野菜を買ってもらおうと、各店から「キズ物や形が悪いものでも良い」「見た目がきれいなものが良い」といった条件やリクエストを受け、野菜の買い取り先を探す活動を「転食活動」と名付けてみたんです。

【小野寺】店内に置ききれない商品の買い取り先をコ

ーディネートしてあげている。要はシェフと生産者の橋渡し活動なんだよね。

【梁川】はい。農家さんが直接お店に出向き、営業して歩くのは結構大変そうで。

【小野寺】 そうだよな。

【梁川】 僕は一般のお客さんとも付き合うし、飲食店でランチしながらお話を聞いたりする機会もあるので、そういう農家さんができない部分を僕らがやり、農家さんは野菜をつくることに専念してもらおうと。そういう間に入るお仕事をし、農家さんに「野菜を持ってきてくれれば何とかするから」って言えるようになりたいですね。「○日までに商品が必要だから、○日までに出荷して」とか「この野菜、急ぎで必要なんだけど誰か準備できる?」とか、そういう情報を農家さんに流して、商品を切らさず供給できる仕組みをつくりたいなと。

【小野寺】 今までそういう橋渡しをする人がいなかったわけではないけれども、新鮮館がそれを始めようとしたきっかけは、お店を運営している中で出てきた課題からだよね。商品が増え溢れる中、どうしたら生産者の方がハッピーになるかを考えた時に、街なかにある産直だから、そこを利用してきている飲食店さんとうまく卸の契約をしていくとか、新鮮館を通してやってもらうといったアイデアに繋がったと!



生産者さんの「こうしたい」を大切に

【小野寺】 最近ヒットした野菜はある?

【梁川】 カットしたカボチャと「ひきな」ですね。飲食店さんは、商品単価が上がったとしても、手を加えていない野菜よりカットされた野菜の方を求めますよ。そういうお客さんからのリクエストを農家さんに流します。そして一人がやり始めると、他の皆も真似し始めるんです。煮物っぽい切り方をする人もいれば、天ぷらっぽくカットする人もいますし。良い意味で、皆工夫するようになってきています。

【小野寺】 同じカボチャでも、「煮物用」「天ぷら用」にカットした状態で売るとい、納品の仕方に工夫が加わってきているんだね。そんな風に、これからの転

食活動の目指すところは生産現場の「表現力」を磨いていくことと、生産者とシェフを「つなぐ」ところ?

【梁川】 そうですね。そこで大事なのは生産者さんが「どうやって売りたいか」や「どうしたいのか」だと思うので、そのためにはやはり一人ひとり話を聞いたり、生産者とシェフがお互いに求められているものをフィードバックしたり、その先でどんな形でやるのかはまだこれからですが。

孤独な農業にしない!

【小野寺】 新鮮館では生産者の新年会を開いているけど、あれすごく大事な場だと思う。

【梁川】 これだけの人がよく集まるなと思うくらい来ますからね。

【小野寺】 楽しみにしているようだよな。ステージ発表のために衣装とか準備してきたり。野菜をつくるだけじゃなく、余興の場も必要だよな。

【梁川】 そうなんですよ。コミュニケーションの場でもありますから。

【小野寺】 農業は、個人事業主だからけっこう孤独なんだよね。うちも田んぼやってるけど、一人トラクターに乗って黙々と同じ動きをして「やっと50mまできた!」なんて考えたり。

【梁川】 そうそう! 商品を出してもらうには農家さんのモチベーションをあげるしかないから、孤独を解消するためにも、畑を回って歩く訪問活動も大事だと思うんです。時間がかかるし大変だけど、でも農家さんからは信頼されなきゃならないですし。

【小野寺】 高齢で孤独を感じている農家さんは特に、「頑張ってる?」ってちょっと様子を見に行く「寄り添い型」の支援の仕方になっていくんじゃないかな。



市内各地を回る「農家さん訪問」は地道で時間もかかりますが、現場を見ながら顔を合わせて話せる大切な時間です。

街なか産直 新鮮館おおまち

住所: 〒021-0881 一関市大町 4-29 なのはなプラザ1階

電話: 0191-31-2201

HP: <http://ikiikishinsenkan.ocnk.net/>

FB: <https://www.facebook.com/shinsenkanoomachi/>

団体 紹介



高齢者でもできるスポーツ吹矢は
大勢の参加者で賑わっています

～基本情報～

- ◆理事長：萩田（はぎた）進さん
- ◆住所：〒021-0901
一関市真柴字中田 41-106
- ◆電話：090-9749-0929
- ◆HP：<http://gjclub.web.fc2.com/>
- ◆活動日・時間・場所：※種目により異なるため
上記HP参照。または電話でお問い合わせ下さい。

「笑顔と元気」をつくる

原点となった言葉

現在、スポーツ吹矢（以下「吹矢」）・フラダンス・幼児の体操・健康ヨガ・すずめ踊りなどの各種教室の開催や、60運動（岩手県教育委員会が児童生徒の体力向上を目的に、遊びやスポーツを通じて1日60分以上の運動習慣を身につける取り組み）での学校支援も行っているNPO法人グッジョブクラブ（以下「GJC」）。2月に発表された「スポーティライフ大賞」（生命保険協会が、健康を意識した前向きな取り組みを進める団体や企業を表彰）では、幼児とシニアを中心にしたプログラム展開がスポーツの概念を広げたと高く評価され、「地域コミュニティ部門」で優秀賞を受賞。今回はそんなGJCから、理事長の萩田進さんにお話を伺いました。

元々岩手県スポーツ吹矢協会の会長で、吹矢の普及活動を進めていた萩田さん。ある時吹矢の体験会で「面白かった。やはり家にいてばかりでは駄目だね（男性高齢者）」「スポーツをやったことのない私にもできるスポーツがあった（女性高齢者）」という言葉もらったそうで、「吹矢を通じて人に気づきを与えることができた体験がNPO法人発足の原点」と振り返ります。

国体への3年計画

平成28年に希望郷いわて国体が開催されましたが、その数年前、吹矢を一関市でのデモンストレーション競技（デモスポ）にという話が萩田さんに舞い込みました。市との協議で「100人の参加者を」と提示された萩田さんは、その目標を達成するために3年計画を立てて動き始めます。まず1年目は『吹矢を知ってもらう』ために体験会を実施。2年目は『参加した人が上達する』ために練習会場の確保。3年目には『吹矢を通じた自己実現』として大会開催を目指し、計画通り市長杯も実現。晴れて採用された国体デモスポの参加申し

込みには、先着100名の定員に対し受付初日になんと150名を超える応募が殺到したといえます。

「100人集めるための3年計画を進める過程で、起業セミナーへの参加や、いろいろな人に話を伺い『総合型スポーツクラブ（※）でのNPO法人化』という方向性が定まった」と語る萩田さん。知り合いが活動していたフラダンス教室と一緒にNPO法人を立ち上げ、その後も『地域の人々の笑顔と元気をつくる』という団体のポリシーのもと、総合型スポーツクラブとして楽しく通える場を提供するために、さまざまな場所に出向き、多くものを見、人との出会いを続けた結果、選択肢となる種目の数も増えてきています。

「グッジョブ」に込められた想い

「グッジョブクラブ」の名称の由来について伺うと、萩田さんは一呼吸置いて話し始めました。「昔、職場に陸前高田市出身の部下がいて、彼の結婚式の時には自分が司会を務めた仲だった。そんな彼が3年間アメリカに赴任したことがあり、帰国後『アメリカ生活で何が印象に残った？』と尋ねると『グッジョブ（「よくやった・頑張った」の意）』という言葉だという。日本の運動会では結果によって『良かったね』『惜しかったね』などかける言葉も違うが、アメリカでは結果に関係なくみんな『グッジョブ』と声をかけられて家族に迎えられるのが印象的と言っていた。彼は東日本大震災で亡くなったが、このやり取りと『グッジョブ』という言葉がなぜか強く心に残っていた…。」

グッジョブクラブという名前は、幼児も高齢者も安心してスポーツを楽しめる場を提供したいという想いの中、大切な思い出が導いたものでした。



NPO法人創設時から活動する
フラダンス教室の皆さん

※幅広い世代の人々が、各自の興味関心・競技レベルに合わせて、さまざまなスポーツに触れる機会を提供する地域密着型のスポーツクラブ

地域紹介



自治会長・千葉孝則さんと制作途中の人形

～基本情報～

- ◆自治会長：千葉孝則さん（1期2年目）
- ◆天神下・聖沢・篠原の3つの小字からなる西の沢自治会は74世帯、人口約220人が暮らす中山間地域です。「農事組合法人西の沢」も組織され、トウモロコシの栽培にも力を入れています。

どうせなら楽しく！常に前向きな活動を。

元気な婦人部が自治会活動の底力

「楽しくやっています」笑顔で活動の様子を教えてくださいましたのは、取材に訪れた自治会館で室根大祭に向けた花づくりにいそしんでいる婦人部のお母さま方。各戸から婦人部会員1名を出してもらうようにしており、役員も1年交代と定めているという西の沢自治会の婦人部は、参加率も高く、総会には委任状も含め48名が参加！家族内での世代交代もうまく行えている家も多く、40代のメンバーもいるのだとか。

今回は「婦人部さんが自治会活動の要では？」との問いかけに「その通りです」と深く頷く自治会長の千葉孝則さんはじめ、前自治会長さん、婦人部のみなさん、その他室根大祭の準備に来ていた地域のみなさんに活動の様子を聞かせていただきました。

新たな挑戦で一致団結

同自治会の一大イベントはお盆に帰省者も交えて開催する夏祭り。青年部が焼き鳥やジュースなどの屋台を出すほか、カラオケやビンゴ、花火を楽しみます。室根町の夏祭りにも盆踊りで参加するため、西の沢の夏は大忙しです。

花いっぱい運動にも参加していますが、一般の部に加え、沿道の部として2kmを超える「あじさいロード」の整備を約15年も続けています。

これらの活動の様子は年4回の自治会報で全戸に報告。自治会報はA3サイズにし、文字を大きくすることで年配の人にも読みやすいように工夫しています。

そんな西の沢自治会が2年前から検討し、集落内に新たに発足させたのが「山車の会『西沢組！！』」。今年開催される室根神社大祭の祭典行列「ほろまつり 褒祭り」に出す山車を制作するための会です。褒祭りの山車は、室根の折壁地域から6組参列し、西の沢もその1つ。これまでは外部の職人に山車の制作を依頼していましたが、職人の高齢化により、今回からは各自で山車の制

作を行うことになったのだとか。

山車の制作にあたっては、「西沢組！！」から「花づくり」を自治会婦人部に依頼。1月から婦人部の有志たちが週に2～3回のペースで作業を行っています。

「大工方」「人形方」などの人たちは人形制作に半年ほど前から取り組み、自治会館にはすでに初めて手作りしたものとは思えない立派な人形が！「やればできるもんだ」と西沢組の親方（会長）の小野寺民雄さん。さらにはどうせ作るなら、と「今までの形は残しつつ『西の沢カラーを出そう』と他の集落の山車とは一味違う工夫をしてある」のだとか。大変さの中に「どうせなら」と工夫を凝らすその心意気に感心させられます。

自治会活動に加え、自らも「大工方」として山車の馬人形制作に携わっている千葉さんは、集落として室根大祭の準備に取り組むことについて、「みなさん一生懸命に協力してくれている、それが何よりです」と笑顔を見せます。

「現状維持」のために

結束力の強そうな西の沢自治会ですが、やはり会議や事業の出席率の低さが課題とのこと。とはいえ、室根大祭の本番には各戸から人が出てきます。厳密には自治会活動とは言えないかもしれませんが、集落としての動きには変わりありません。

自治会としての今後の目標を「夏祭りを開催し続けることですかね。現状維持が大切です」と語ってくれた千葉さん。変わりゆく時代の中で、今の事業をいかに工夫しながら継続していくか……。山車制作という初めてのチャレンジにも明るく笑顔で取り組む西の沢のみなさんならそう難しいことではないかもしれません。



「花づくり」に取り組む婦人部のみなさん

企業紹介



オーナー 小山裕子さん

～基本情報～

- ◆オーナー：小山裕子さん
 - ◆住所：〒029-0803
一関市千厩町千厩字町 86-1
 - ◆TEL/FAX：0191-48-4802
 - ◆定休日：毎週月曜日
- Facebook でお店情報発信！！

生まれ育った“わが町”で、誰もがくつろげる空間をつくりたい

「店を持つ」決心させた亡き母の一言

一関市千厩町の街なかに、白色の外壁を季節の草花で彩り、まるでフランスの建物を思わせる素敵なカフェがあります。「年齢を問わず誰もがおいしい食事をしながらゆっくりおしゃべりを楽しむ場所、くつろげる場所を提供し続けたい」と語るのは、カフェキャトルのオーナー小山裕子さんです。店名の“キャトル”はフランス語で数字の4を表し、小山さんの誕生日と幸せの頭文字をかけて命名しました。

小山さんは高校卒業後、洋菓子づくりの専門学校に進学。その後、東京や北海道で洋菓子やカフェに関わる仕事に10年以上携わってきましたが、平成21年、自身の母親が病に倒れ、介助が必要となったことをきっかけに地元、千厩町小梨地区にUターン。全面的な介護というよりも、病院への送迎や付き添い程度だったため、地元で就職先を探していましたが「母親に万が一のことがあったら」という不安もあり一歩踏み出せない状況が続きました。

そのころ、一関市の広報で「いちのせき元気な地域づくり事業『新規店舗開店等支援(千厩支所)』」の第1期生の募集が目にとまり、「町内の空き店舗を利用してお店を開くことができる」ということを知ります。接客や作ることが専門で、経営経験はなかったものの、洋菓子作りに携わってきた小山さんは「自分の店を持つことができるのか」と夢を抱きはじめました。

それから2年後の平成23年5月に母親が他界。闘病中、娘の将来を案じた母親からの「結婚をするか、(スキルを活かした)店を持つかどちらか決めて」という一言がきっかけとなり「自分のお店を持とう」と決心。同年、いちのせき元気な地域づくり事業の同支援第2期生募集に手を挙げ12月にオープンとなりました。

「中途半端は失敗する。『やるぞ!』と決めたからには、この辺にはないおしゃれな雰囲気のカフェに」と外装内装もこだわりました。慌ただしさもありました

が、母の一言が背中を押してくれているようで」と振り返ります。町内の空き店舗を紹介してもらったうちに「こんなに空き家や空き店舗が多くなっていったのか」と地域の課題に気づかされたとも言います。

スキルを活かして地域とのつながりを育む

小山さんは、カフェキャトルのオープン前から地元の地区民祭などに“ワッフル屋さん”として出店。10数年地元を離れていた小山さんでしたが、「地元の祭りなどで出店しているうちにたくさんの方々と繋がりを持つことができた」と語り、「ワッフルも喜んでいただき、それが自信に繋がった」と続けます。現在も年に数回、地元のお祭りや、町内で開催しているマルシェなどに出店し、同・異業者間の情報交換、住民との交流を大切にしているそうです。

また、同カフェで提供されているメニューには、地元産のフルーツや野菜を積極的に使用していますが、その中には来店してくださったお客様がたまたま野菜や果樹生産をされている方で、『ぜひ、カフェで使用して!』と話が盛り上がりメニュー提供に至ったものもあるのだとか。「フルーツや夏野菜などは季節限定になりますから、ぜひ、地元の旬を味わっていただきたい」と小山さんもニッコリです。

来年の夏!新たな前進!!

現在、カフェキャトルでは3名の従業員を雇用し、地元での雇用の場を提供しています。「実はまだちゃんと発表できないのですが、来年の夏新しい取り組みにチャレンジする予定です。千厩の町を賑やかにしたい。そして雇用の場を増やしたい」と意気込みます。今後の展開がますます楽しみです。



3月は藤沢町産のいちごフェア開催中
4月は・・・楽しみです。

100人？に聞きました！難解地名に挑戦！

センターの〇〇！



スタッフの聞き込みの様子：花泉地域

地域にお邪魔する機会が多い私たち。時々「え～これってなんて読むの！？」と疑問に思う地名に出くわすことがあります。

そこで今回は久々の“100人？”に聞きました！”で調査することに！
難解地名すべて答えられる人は果たしているのでしょうか？

今回の難解地名対象地域は「一関市狐禅寺地区」。選りすぐりの難解地名を、地域担当の畠山がピックアップ！各地域で聞き込みを行い、合計107人の方にご協力を頂きました。

01

出題した難解地名
in 狐禅寺

※ゼンリン住宅地図に掲載されている地名の読み仮名を正解とします。
※読めなかった地名をランキングでご紹介します。

第1位

地名	正解	正解率 (%)
桑木原	クワノキバラ	4.7

正解率が最も低かった地名は桑木原(くわのきばら)

正解率が最も高かった地名は手負沢(ておいざわ)

全体の正解平均は37.6%とかなり低めである

田「た・だ」、沢「さわ・ざわ」などの濁点も区別しました

残念ながらすべての地名を正解した方はいませんでした・・・

② 川岸場	カシバ	11.2	⑦ 久田	キュウデン	43.9
③ 林谷起	ハヤシヤギ	18.7	⑧ 谷地田	ヤチダ	47.7
④ 土手外	ドテト	25.2	⑨ 田谷下	タヤシタ	56.1
⑤ 雁田	ガンダ	36.4	⑩ 宇南田	ウナンダ	61.7
⑥ 上ミ田	カミタ	39.0	⑪ 手負沢	テオイザワ	69.2

そこで、正解率が最も低かった・・・

02

『桑木原』に行ってみました！



桑木原は東大橋の北200mの場所で、半分が磐井川、残りの半分が川に隣接する雑木林(桑の木ではない)でした。近くにある北上川学習交流館あいぽーとの齋藤一公さんのご厚意で同行いただき、長靴履いていざ探検！堤防から見下ろした右の写真ですが、木以外何もない場所でした。

その後堤防を降りて林の中を歩いてみると、川のそばということもあり地盤が緩い感じです。かつては道もあったようですが、今ではかすかに面影が残る程度。10年前の地図にはあった川の中島が今はなくなっているなど、月日の経過や川の浸食と堆積で微妙に形状変化もあるようです。

桑木原周辺は明治時代の地図(あいぽーと保有)によると桑畑で、文献(※)によると桑木原の地名の由来も桑の木にちなんだものだそうです。

※参考文献：阿部和夫(1981)「一関の地名と風土」トリョーコム

※取材協力：北上川学習交流館あいぽーと



■現在の桑木原は雑木林になっていました
■林の奥に磐井川が流れています

おしらせ

宮城

Wilderness Advanced First Aid in MIYAGI

野外で人を助ける技術を学びます。一般的な救急法とは違い、救急搬送できない環境を前提とした実践的な内容に取り組みます。傷病処置の優先順位や看護・搬送を視野に入れた行動を学ぶ4日間。

【期間】平成30年4月5日(木)～8日(日)

【場所】国立花山青少年自然の家(宮城県栗原市)

【料金】64,800円(税込)(3泊4日)

※ほか、宿泊費・食費の合計5,210円は現地で精算。

【問合せ】0191-48-4046

(日本空糸株式会社(一関市萩荘))

一関

山んばサミット岩手

～山へ入ろう！人の暮らしはここから始った～

山は暮らしにどんな恵みを与えるでしょう。私達は木のぬくもりから何をもらおうでしょう。山に入ろう、木を活かした楽しく豊かな暮らしを手に入れようとする5人のパネリストを各地からお迎えして、山の今、そしてこれからのことを様々な方向から伝えます。

【日時】平成30年4月15日(日)13時～16時

【場所】一関市総合防災センター3F大会議室

【参加費】500円

【問合せ】s-sakio@mtg.biglobe.ne.jp

090-6222-8634

(いずれも「岩手やまんばプロジェクト」菅原宛)

一関

アジアンパーカッション

一関ライブ

パーカッション奏者の吉見征樹さん、秀さん、和田啓さんによるライブを行います。

リズム楽器でありながら限りなくメロディアスなそのグルーブは必聴必見！楽器解説もあり、エネルギーで楽しいライブです。

【日時】平成30年4月19日(木)

18時30分～20時30分

【場所】蔵のひろば2F(一関市田村町 8-12)

【料金】チケット 2,500円

※チケット購入については下記問合せ先まで。

【問合せ】090-4007-1724(菅原)

一関

メディカルアロマフェスタ in いちのせき

日本に治療として本物のメディカルアロマを普及させた第一人者である、NPO法人日本メディカルアロマセラピー協会会長の吉田晶一さんによる講演会を行います。ホルモンが身体に与える影響と更年期、メディカルアロマセラピーの有効性など幅広くお伝えします。

【日時】平成30年4月21日(土)14時～16時

【場所】一関市総合防災センター3F 大会議室

【参加費】3,000円(ラベンダーウォーターのおみやげつき)

【問合せ】080-5575-1832

(メディカルアロマ教室サンティール/小野寺)

市内全域

犬と人の楽しい暮らしをお手伝いします 出張トレーニング

「トイレの場所を覚えてくれない」「しつけの仕方がわからない」…そんな悩みにドッグトレーナーが寄り添います。自宅カウンセリングのあと、お悩みに応じたトレーニング方を学び一緒に練習する計4回のプログラム。※開業に向けた準備期間中のため、特別に先着2名様のみ無料サービスいたします。

【内容】①自宅カウンセリング(1時間×1回)

②出張トレーニング(1時間×3回)

【料金】無料(先着2組様限定)

【問合せ】080-1822-4934(千葉)

市内全域

「集落参観日」受け入れ集落大募集

地域外の人達と一緒に集落内を散策(まちあるき)することで、地元住民だけでは気づかなかった地域の魅力を再発見しませんか。「集落参観日」という企画の中で、地域外の人達を受け入れたいという集落を募集しています。「うちの集落には特に何も無いから…」という所こそ大歓迎！先着2集落の募集です。詳細は下記ホームページまで。

【料金】無料

【HP】<https://www.center-i.org/>

【問合せ・申込】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

地域制限なし

新規キャリアサポーター募集

キャリア教育支援として、これまで培ってこられた技能・技術(工学系のみならず広義で)などの仕事の体験や経験を、ボランティアで子どもたち(小・中・高校生)や若者に伝えるキャリアサポーターを募集します。活動できる日時や時間帯に合わせて活動でき、若者との交流や様々な職業の方との情報交換の場にもご活用いただけます。

【問合せ】0191-26-3910(ジョブカフェ一関)

★

地域づくり活動のお助け本「+NOTE」(タスノート)のご紹介

「+NOTE」は、地域づくりに取り組む皆さまの一助にさせていただこうと、地域づくり活動に必要な基本的な知識から、いちのせき市民活動センターのスタッフ一人ひとりがもつノウハウをぎゅっと凝縮した本です。地域づくり概論から始まり、地域協働の進め方、話し合いの仕方など全7章で構成。皆さんのスキルに「プラス(+)」になり、時には「お『たす』け役」になりますよう、ぜひご活用ください。

【価格】一冊1,000円

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

地域制限なし

「イマカラ」登録者募集

いちのせきの市民活動スタッフバンク、通称「イマカラ」は、一関市内で開催される「スタッフを募集したいイベント」と「地域で活動したい人」をマッチングする仕組みです。当センターのホームページ内「いちのせき市民活動スタッフバンク」のページから無料のスタッフ登録をすると、スタッフを募集しているイベント情報が随時メールにて配信されます。

※18歳以上の方がご登録できます。

【HP】<https://www.center-i.org/>

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

今月の表紙



今年10月※に「室根神社勧請1300年祭(室根神社特別大祭)」が開催されるにあたり、室根地域をはじめ、関係する各地域では祭りに向けた準備が進められています。表紙の色鮮やかな花たちは「豊祭り」の6台の山車を彩ります。

(※10月26日、27日、28日開催)

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 「一般財団法人」とはどのような法人ですか？

A 一般社団法人と同じく、団体の公益性や目的に制約はありません。財産に法人格を与え、その財産を運用し生じる利益をもって事業を行うため、法人を設立する時には「300万円以上の拠出財産を保有していること」を要件としています。そのほか、役員に理事3人以上、監事1人以上、評議員3人以上置くことも必要で、定款認証と登記手続きをもって法人を設立します。

